

【活動報告】 ウォーターセーフティーデー、親子で着衣泳体験を行いました

全国のYMCAは、1981年から毎年6月～9月に「ウォーターセーフティーキャンペーン」を実施し、水の事故から子どもたちを守る取り組みを続けています。現在は、各地域の教育委員会の後援を受け、小学校での着衣泳の出前授業やハンドブックの配布を通じて、水の事故から身を守る方法を伝え、水難事故の防止を啓発しています。

特に6月第3日曜日は「ウォーターセーフティーデー」とし、全国のYMCAで「いのちを守る講習会」を開催しています。今年は6月16日（日）に山手コミュニティーセンターとウエルネス東陽町、6月30日（日）にウエルネスガーデン品川御殿山で、幼児・小学生とその保護者を対象に着衣泳体験会を実施しました。計63組（126名）の親子にご参加いただきました。

体験内容

<体験① 紙芝居で水の安全について学ぶ>

「水辺での安全な過ごし方」「もしも溺れている人を見かけたら？」など、水難事故を防ぐための知識を紙芝居で学びました。動画もございますので、ぜひご覧ください。

紙芝居の動画もございます。ぜひご覧ください。

紙芝居はこちら：https://youtu.be/GTW_rfnEOw4



<体験② 心肺蘇生（CPR）体験>

心肺蘇生練習専用の人形を使い、胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの使用方法を学びました。大人と子どもの違いや、水辺でAEDを使う際の注意点についても講習を行いました。



<体験③ 着衣泳体験>

服を着て水に入ると動きにくくなることを、子どもだけでなく保護者の方にも体験していただきました。

- ・みんなで同じ方向に歩いて「流れるプール」を作り、反対に回することで水の流れや抵抗を実感。
- ・海をイメージし、海藻に見立てた黒いビニールをくくりつけたフープ「わかめフープ」をくぐる体験。
- ・リーダー（スタッフ）が起こした波を乗り越えるなど、実際の水辺の状況を親子で体験しました。

また、「浮くものを投げる」「助けを呼ぶ」など、溺れている人を見つけた際にできることを学びました。さらに、自分が誤って水に落ちた場合に仰向けで浮いて呼吸を確保し、岸へ戻る練習も行いました。



各YMCAの様子 山手センター

午前の部・午後の部合わせて、11組の親子が参加しました。前半は、水上安全の講習として、水難事故を予防するためのお話や専用の人形を使った心肺蘇生、AED(自動体外式除細動器)の使い方の手順などを確認しました。「倒れている人を見つけた」という想定で、周囲にいる人に助けを求め、AEDの操作や救急車が来るまで胸骨圧迫・人工呼吸を続けることを体験しました。後半は、実際に親子でプールに入り、服を着たまま水に入る動きにくさや、海藻・波・小石など自然環境の影響を疑似体験し、浮くもの(今回はペットボトル)に掴まって、呼吸を確保しながら浮き身の姿勢をとる練習もしました。

ウエルネス東陽町

6月16日(日)に幼児・小学生と保護者32組が参加しました。前半は、保護者と子どもに分かれ、それぞれ学びの時間を設けました。子どもたちは紙芝居を通して「水場に遊びに行くときは、必ず大人の人と一緒にいくこと」「溺れている人を見つけた時には、大人の人を呼ぶ、浮くものを投げる、直接一人で助けに行かない」ことなどを学びました。保護者には、胸骨圧迫やAEDの使い方を説明し、実際に行っていただきました。着衣泳では海藻に見立てた黒いポリ袋フラフープにつけ、その中をくぐったり、スタッフがビート板で起こした波の間を通り抜けたり、ダイブボールを石ころなどに見立て踏みつけながら歩いたり、服を着て岸に上がる難しさも体験しました。その他にペットボトルを使用し、呼吸確保の仕方や溺れている人がいた時に助ける方法にも挑戦しました。参加者からは「初めて着衣で水に入り、よい経験になった。」「(水を含んだ服が)想像以上に重くてびっくりした。」といった声が寄せられました。

ウエルネスガーデン品川御殿山

6月30日(日)に午前・午後合わせて年中から小学5年生まで子どもと保護者20組が参加しました、今年度初のCPR体験では、保護者の「いのちを救いたい」という真剣な取り組みが印象的でした。着衣泳では海や川を想定した環境で、いのちを守るための行動を学びました。溺れた人を助ける方法(浮くものを投げるなど)も体験しました。



東京YMCAでは通常の水泳クラスでも着衣泳を定期的に行っております。今回の参加者を含め、この体験が安全に過ごす方法を改めて考えるきっかけになることを願っています。水難事故を未然に防ぎ、楽しい夏休みをお過ごしください。